

## 第4回 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会 議事要旨

日時：2007年11月27日(火) 14:00～16:00

場所：吹田商工会議所 第一会議室

### ○次第

1 開 会

2 案 件

- ・ 吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更について
- ・ 前回(4/25)以降の経過について(報告)
- ・ (仮称)吹田操車場跡地まちづくりアイデア募集コンペについて(報告)
- ・ 今後のまちづくりスケジュール
- ・ その他

3 閉 会

[出席委員] 12名(うち代理7名)

[アドバイザー] 2名

[オブザーバー] 3名

### ○開 会 会 長

今年度2回目の協議会となるが、ご多忙の中、ご出席を賜ったことに感謝している。本年6月に計画委員会で策定された「吹田操車場跡地まちづくり全体構想」を基本に吹田・摂津の両市において、関係機関との調整や事務手続を進めてきた。

今後は、平成23年春のまちびらき目指し、いよいよ具体的なまちづくりに向けて、民間活力を最大限活かすべく、議論を進める必要がある。

本日は、前回の協議会以降の経過報告を中心に、コンペの実施方法についても形が見えてきたので、報告を受け、どのような協力ができるか議論したい。

### ○吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項の変更について(報告)

事務局 (資料1について説明)

※新たに委員を迎えたことに伴い、全員の自己紹介にあわせ、まちづくりへの想いを語っていただいた。

会 長 東部拠点は、北摂に残された最後の大きな土地開発である。更地であり、形も細長い土地形状であり、吹田市と摂津市とをまたがっているなどいろいろな問題点がある。また、開発というのは、ハコモノから環境、自然というような視点を重視されるようになってきているので、そのような点について、どのような形でアイデア出しや助言ができるのか考えていきたいと思っている。

委 員 私は、昭和30年に豊中市より千里丘に引越してきた当初、駅から街を見た感じは広大な場所にたくさんの線路だけがあり広陵とした一帯で、寂しい感じがしたのを覚えている。その後、そこが操車場だと理解し、小学生ながらその地域に住んでいることを誇りに思ったものである。そのうちに縮小されたが、近隣住民や患者からは列車が通るたびに揺れがひどいと苦情が多く問題であるが、個人的な意見ではあるが、歴史のある操車場なので跡地であるということをもニュメントやミュージアムのよう

な形で残すというのがいいかと、思っている。意見は、これから議論を重ねていく上でまとめていきたいと思っている。

委員 私は、この操車場が機能停止した 59 年～60 年ごろに鉄道局と国鉄用地の整理、区画割りの線引きに関わっていた。吹田以外の跡地開発は進んでいました。この吹田操車場は土地が小さかったことなどから、今まで開発が遅れていたことを、逆に環境問題などを考慮し、地域にメリットのある土地利用を目指すための知恵を出していきたい。

委員 本地区については長い経過があるが、いよいよまちづくりが具体化してきた。本事業は、UR が施行することとなるが、方向性やノウハウについて発表いただける時期が近づき、期待している。広域的都市基盤からこの事業にいかにか整合していけるか、ということ都市計画の調整等においても協力していきたい。

委員 私どもとしては、この地域での税収そのものを期待しているわけではなく、まちの機能を全体的に上げることで市全体の市民の新たな需要を促すことが長期的に見て、市の経営に役に立つのだという考え方に立っている。そういう意味でコンセプトのメインである教育創生、医療健康というものを掲げていますが国立循環器医療センター、大阪大学、阪大付属病院などの大きな医療拠点に対するクラスターとしての役割が担えればという考えでいる。そうすることによって吹田市のみならず摂津市ともども北大阪での新たな、まちの拠点ができるのではないかと考えている。また、現在ではまだ交通政策審議会には、上がっていないが、地下鉄 8 号線の終着駅、井高野駅から岸部をつなぐことで東海道線、阪急京都線、地下鉄の 3 線が結合されることになる。これによって京阪神という軸の中に大阪の東の南北軸ができあがり、そういう意味では、機能性を秘めたまちであるということになるので、皆様のご協力とお知恵を拝借し、30 年～40 年先を見据えたまちの機能の創生を目指していければと考えている。

委員 阪急京都線の正雀駅と南茨木駅の間に新駅を作りそこを核として約 6.8ha の南千里丘のまちづくり事業を平成 22 年の春を目標に進めている。この事業は、工事跡地の所有者からの提案を受け、摂津市と阪急電鉄とで地球温暖化の対策モデル地区の実現化を目指して覚書を締結した。この取組みについても国土交通省や環境省に要望や説明をしている。この取組みの事例やノウハウが操車場跡地にも当てはめることができたらと考えている。また、まちづくりのコンセプトである「緑と水につつまれた」というくだりがあるが、この「水」についての取組みが希薄な感じを受けている。その中で、河川について、ちょうど吹田市と摂津市の間には正雀川、また摂津市域には山田川があり、いずれも大阪府の管理河川であるが、この河川を活かすことができたかどうかということも考えている。唯一、ある程度の水量がある山田川をうまく当市近隣公園の防災公園と整合のとれた考えができないかと考えている。その可能性についても、これから大阪府とも協議しながら進めていきたい。また、処理場については、吹田市と摂津市の両担当部で調整を行っており、また、大阪府とも協議をしていると聞

いている。この処理場は、両市にとって、大きな問題ではあるが、今回締結した協定書にもあるように両市がお互いに協力し、この問題の共通認識を図りながら、まちづくりの実現を目指してまいりたい。

委員 私どもは、総エネルギー産業として電気や情報、セキュリティといういろいろなツールを持っているが、最近はその辺を活かし、タウンセキュリティーやタウンマネジメントなどの分野において、総合的な取り組みをしている。そのベースには必ず二酸化炭素削減や省エネなど環境問題が国土交通省、経済産業省、環境省より、それぞれの立場から指導があり、それに沿ったまちづくりに努力している。ただ我々は、地域の方々のニーズに合わせて考えていこうと思っているので、いくつか紹介できるものもあるが、まずは、皆様からのご意見をいただいた上で、いいものがないかと思っている。

あと、この吹田操車場の場合、他の地区と比べると特殊な地形をしていることから地区内のコミュニティを考えると地区内の交通機関というものの必要性を議論すべきではないかと感じている。

委員 私どももエネルギー事業者であると同時に地域に密着した企業ということで、環境に配慮したまちづくりを目指していきたい。エネルギー産業を営む企業としては、地球環境をグローバルに考えてかつ地域の資産やストックを上手く利用したまちづくりをしていくために我々も汗をかき、知恵を出して取組んでまいりたい。

委員 我々は、通信事業者だが、事業の柱としてブロードバンドネットワークサービスの普及拡大ということで、まだ、法務省に認可申請中ではあるが次世代のネットワークサービスということも会社として取組んでいる。今回の事業については、テーマでもある「緑と水につつまれた健康と教育の創生拠点」ということで、先に申し上げたネットワークサービスを活用して貢献してまいりたいと考えている。

委員 この会議に私は昨年何回か参加しているが、今回は、4回目ということで国の地域再生計画の認定であるとかコンペの具体的なスケジュールが進んでいるということで、着実にまちづくりが進んでいるという感じを受けている。JR 岸辺の駅前ということもあり、この地を中心としたまちづくりが進み、活性化されることが当社としても非常に喜ばしいことであるし、岸辺駅の橋上化の計画もあるので、今後、協力しながらまちづくりを進めてまいりたい。

委員 私どもは、不動産事業の方面で電鉄と同じくらいに利益を上げてきており、この地域とともに発展してきた。今回は、岸辺駅前の新しいまちづくりということで我々は、駅を中心としたインフラでどれだけ集客が図れて、どれだけいいまちになっていけるかという点を日々体感しているが、特に先般お話にも出ていたようにエコの話であるとか、二酸化炭素削減の話であるとか、これから、鉄道の駅というインフラを利用して良いまちづくりをしていくというのは大きな課題だと思う。今回のまちづくりも残

念ながら当社の駅前でないが、沿線のまちが向上して行くということで大事な事業だと思っている。微力ではあるが、協力してまいりたい。

委員 当社は、長らく千里丘放送センターからテレビ、ラジオの放送電波を発信していた関係でこの場に参加している。私自身もその間 JR に乗って通勤していた。その地がまちづくり事業で変わってゆくことには非常に興味深く思っている。細長い用地ということでおそらくプロの方からみても難しいテーマだとは思いますが、かえってそれを活かした何か面白い考えが出てくるのではないかと期待している。それと先ほど税込アップだけを目的とせず地域価値の向上を目指すというお話があったように、そういう考えで進められるのは良いことだと思う。私どもはメディアの会社であるので、その方面から役に立てる何かがあれば微力ではあるが協力していきたいと思っている。

アドバイザー 大学院の医学研究科の教授として医療情報学というのを教育、研究しており、病院では、医療情報部長として大きなマンモスのような病院に神経を入れるというような役割を果たしている。一方、もう一つ国立大学病院の医療安全管理協議会の会長という役も兼ねておりまして、病院長補佐をしている。私のこの場での立場はおそらく、こういう地域のなかでいかに神経を通わせるようなソフトというかプログラムを作るかということが求められているものと思う。そういった意味で医療情報の立場から市民の健康づくりとまちづくりといったことに対して、意見を述べたいと思っている。

オブザーバー 今回 11 月から我が社が区画整理事業をすることになった。我が社では神戸のハーバーランドから大阪駅近辺など幅広く事業を行っているので、ノウハウを是非この吹田でも活用できるように頑張っていきたい。ただ、我が社はどちらかというと基盤の分野であり、まちというのは上ものができて初めてまちとなるということだと思う。今回のメンバーの皆様には民間の企業の方々もいらっしゃるもので、民間の皆様方の意見を上手く取り入れていけるようなコーディネーターとしての役割も担っていければと思っている。

オブザーバー 私どもはこの協議会を始めとして、「まちづくりの計画委員会」でもご検討いただいている。まちづくりに向けての検討の対象となる約 23ha のうち 13ha を当機構が持っている。これは、いずれどちらかの方に買っていただくということになるかと考えている。国民の財産を国鉄の赤字にあてるといところからスタートしてきて基本的には現在もあまり変わっていないという風に考えているので、その土地の処分ということにあたっては、法に定められた、ある一定の方法というのがあり、これに沿って処分していくということになる。その点は、少し一般の地主さんとは違うので何かの機会にその点も含めてご検討いただければ、ありがたいと思っている。あと一点、隣接して、吹田貨物ターミナル駅が既に吹田、摂津の両市にはご理解をいただき工事の着手ができ、現在、取り掛かっている。先ほどからの話にもあるが横に長いことと、現在ある鉄道施設を活かしながらの工事ということであり、非常に困難な工事を伴っているため、これをきちんと進めていくということが当面私どもにできる、

まちづくりへの協力ということの大きなポイントでないかと考えている。

オブザーバー JR貨物のまちづくりの対象となる土地は9.4haですが、これは、国鉄時代の計画の梅田の移転という形の変更によって生み出された土地である。ただ、今回、吹田地区に分散移転というカタチの計画である。そこの新たに必要な事業用地というものの手当て、混合、整理していくというような状況である。その状況の中、吹田操車場跡地のまちづくりに向けて先ほどからの委員の方々の話にもあったように歴史と社会的意義のある土地柄であるので、今回のまちづくりの中で新しい役割を發揮していければと思っている。

#### ○前回（4/25）以降の経過について（報告）

事務局 （資料2～6について説明）  
会長 企業立地に関して、東部拠点ではなくこれは彩都のことですか。  
委員 基本的には、彩都のことであるが、東海道軸線上の吹田操車場跡地での立地も考慮しても良いとのことから大臣申請したものである。  
委員 地区内を自由に移動できる交通手段として、バスやLRTなど、何かこの地区にしかない移動手段があればと思う。  
委員 水辺空間として、ボックスの設置という話もあるが川本来の姿をみせなければならぬと思っている。

#### ○（仮称）吹田操車場跡地まちづくりアイデア募集コンペについて（報告）

事務局 （資料7、9について説明）  
会長 協力・後援で、促進協議会メンバーとあるが、どのような協力を求めたいのか。  
事務局 特にPRに関する面で協力を願いたいと考えている。  
会長 コンペについて、2回目の協議会のときに、インサイダーの観点からコンペに参加しにくいという意見があったが。  
委員 今回は、アイデア募集コンペということで事業コンペと切り離されているし、応募対象も個人となっているので、そのあたりは充分クリアされていると思う。  
委員 アイデアを出すよう社内の職員に働きかけているが、促進協議会に参画している企業は、審査員には入るべきではない。  
委員 いろいろなアイデアが集まると思うが、地域再生計画との関係は、どのように考えているのか。  
委員 地域再生計画は、環境先進性に関するプロジェクトで、環境省、国土交通省、経済産業省が関係している。時間軸としては、アイデア募集コンペ、事業コンペと平行させるという考えである。今後、アイデア募集コンペを踏まえ、まちづくり計画の基本計画編を策定する予定であるが、アイデア募集コンペで優れたものがあれば、地域再生計画に盛り込むということも可能である。  
オブザーバー コンペに際しては、権利関係を十分に考慮して実施する必要がある。  
委員 アイデア募集コンペに際しては、広報が非常に大切であると考えている。交通媒体や駅を活用した広告などにより認知度を広げることが大事である。

#### ○今後のまちづくりスケジュール

事務局 （資料8について説明）  
※次回の促進協議会については、アイデア募集コンペ審査終了後を予定。

#### ○その他

会 長 8月の関係者会議において、5～6年先のことについてアイデアを出しにくいとの意見があったが事務局としては、どのように考えているのか。

事 務 局 関係者会議でいただいた意見については、十分に考慮し、アイデア募集コンペの実施をまちびらきの2年前に設定するということで変更した。

アドバイザー アイデア募集コンペの後、事業募集コンペを実施するということが、行政が主体でまちづくりを進めるのか、または、民間が主体でまちづくりを進めるのか、そのあたりの先の見通しはどのように捉えているのか。

委 員 従来であれば、行政主導型のまちづくりであったが、基盤整備については、行政でなくURが実施する。上もののあり方については、都市計画上の概念により広いまちづくり計画を行政が責任を持って作成し、それに沿ったコンペを行っていく。ファイナンスを含めて、民間主導で行っていくという考えである。

アドバイザー 地域再生計画で環境を前面に出されているが、事業主体によっては、かなり変わってくる面があると思うので、そのあたりを危惧する。

委 員 国の第三次環境基本計画でもあるが、環境を前面に出しながら、いかにビジネスモデルとして創出していくかということが課題である。環境と経済の融合を実現していきたい。

会 長 脱温暖化都市モデルという言葉は、どこから出てきたのか。

委 員 まちづくり計画委員会で作成した全体構想から引き出してきたものである。

以 上